

## 上田中央地域協議会会議録

日 時 平成 19年 1月 19日（金）午前 10時から 12時 20分  
場 所 上田駅前ビル パレオ 5階会議室

出席委員 岡田委員、荻原委員、金子委員、河野委員、栗俣委員、小林委員、白石委員、田口委員、竹内委員、中澤正博委員、那須野委員、箱山委員、林委員、前澤委員、三吉委員、山内委員、山極委員  
市側出席者 原沢自治振興課長、小宮山自治振興課課長補佐、柳沢主査

### 1 開会（原沢自治振興課長）

### 2 会長あいさつ（林会長）

総合計画の地域まちづくり方針の答申に向けた 2 回目の会議である。前回示された事務局のたたき台に対し、各委員からご意見を提出いただいた。その意見をもとに事務局で修正案を作成し、事前に送付申し上げたところである。

本日は修正案に対するご意見をいただきながら、答申案を作り込んでいきたい。

### 3 会議事項

#### （1）審議事項

第一次上田市総合計画「地域まちづくり方針」について（諮問）

#### （林会長）

それでは会議事項に入ります。地域まちづくり方針の修正案と考え方について、事務局から説明をお願いします。

資料「上田中央地域 地域まちづくり方針 委員提出意見に基づく事務局案」

原沢自治振興課長から説明

#### 〔項目〕

新市の核となる都市機能の充実と中心市街地の活性化  
歴史的な資源を保全・活用したまちづくり  
市民や来訪者が安心して行き交うまちづくり  
自然環境の保全と共生によるまちづくり  
保健福祉活動拠点の整備と人的資源の活用  
地域コミュニティを中心とした共助による地域を誇れるまちづくり  
産学官連携支援施設や伝統工芸など地域の特性を活かした産業の振興

(林会長)

ただいまの事務局説明の中でご質問等ありましたらお願いします。

質問等なし

(林会長)

それでは、本日の会議の進め方について事務局から説明をお願いします。

(原沢自治振興課長)

本日の会議の進め方について事務局から提案させていただきます。4つのグループに分かれていただきまして、1時間程度全7項目につきましてご議論いただきたいと思っております。グループごとに協議していただいた後、それぞれグループの意見を発表いただき、その後全体で協議するといった方法を提案申し上げます。

(委員)

事務局が相当な時間をかけて検討し、さらに各委員の意見を参考に作成したものを取って検討する必要があるのか。

また総論はいいが、各論までふみ込むのか。

(原沢自治振興課長)

修正案は、前回ご議論いただいた意見もとに、また総合計画本体との調整を図ったうえで作成したものである。本日は修正案に対しご議論いただき、その意見をもとに修正を加え、次回の協議会で最終案をお示ししたいと考えている。

総合計画であるので、具体的なものは掲載していないが、各論部分も意見として出していただいて結構である。

(林会長)

各班ごとに修正案を検討いただき、さらに修正すべきところがあれば、出していただくことでよろしいか。

(原沢自治振興課長)

そのようにお願いします。

なお、項目につきましては本日決定いただきたいので、よろしくをお願いします。

(林会長)

それでは、班ごとに分かれていただいて、1時間程度ご検討をお願いいたします。

班別討議

<再開>

(林会長)

それでは、各班から意見の発表をお願いします。

【1班】

(委員)

項目 について

- ・ 商いをやる人に商店街に帰ってきてもらいたい。それを進めない限りは、空洞化に歯止めがかからないのではないか。
- ・ 事務案の「街なか居住」の内容について、お聞きしたい。
- ・ 衣・食・住ではなくて、商・食・住の考え方で活性化を図ったらどうか。

項目 について

- ・ 上田城跡公園の来訪者が増えているが、常時訪れていただくというところまではいっていない。春先突風が吹くと砂埃が舞う等の対策を含めた公園整備を実施し、より多くの方々に訪れてもらえるようなまちづくりを目指す。

項目 について

- ・ 駅前パトロールの実施により環境が整ってきたが、この運動を継続するとともに街全体のパトロールを強化し、人のつながりを大切にしていくことが大事である。住民がお互いに安心して愛するまちづくりを進める意識改革、そういった運動を展開していく。

項目 について

- ・ 都会から来られる方が上田駅を降りると山や川が見えることで感動する。自然を大切にす意識改革を進めていったら良いのではないか。

項目 について

- ・ 20代から 40代の中間世代の再教育をするシステムができればいい。

項目 について

- ・ 特に若い人達の中から人材発掘を進めることが大切である。地域コミュニティと市の共助が大切である。行政に相談に行っても、2つ以上にまたがる問題をもっていくと、縦割りの対応となってしまうので、行政側に一本の窓口がほしい。役所の横のつながりを深めて、市民と共に活動していきたい。

項目 について

- ・ 原町、海野町の空きビル等を利用して、産学官の研究成果等を展示できる場を確保し、人が集まる場所にしていけばいい。

## 【2班】

(委員)

項目 について

- ・ 事務局案を基本として、細目にわたって委員提出意見を挿入していただきたい。

項目 について

- ・ 事務局案を基本として、近隣他地域との連携も併せて推進する。

項目 について

- ・ 事務局案をベースとして、「安全安心の街」実現への意識向上へ行政のリーダーシップをお願いしたい。

項目 について

- ・ 事務局案に加えまして、上田市で最も欠けている部分は、景観に関する条例、環境保全に関する問題の具体策が全く提示されていないので、これらを具体的に展開することを文言として加える。

項目 について

- ・ 事務局案のとおり

項目 について

- ・ 「複雑多様化する地域課題を適切に解決していくため、住民・各種団体・行政の協働による新たな地域づくり～」とあるが、「自治会を中心として」という文言を入れてほしい。

各種団体は、それぞれの任意の考え方で運営されているわけであるが、自治会は町内で起こりうることはすべて責任をとらなければならない存在であり、各種団体とは同列ではないと思うので、「～自治会を中心として、住民・各種団体・行政の協働による新たな地域づくり」とする。

項目 について

事務局案のとおり

## 【3班】

(委員)

項目 について

- ・ 「新市の核となる」とはどういうことなのか。中央地域が上田市の中心という宣言と捉えていいのか、他の地域との整合を考えた時に、こういう表現を入れるべきかどうかについては検討を要する。
- ・ 「上田駅を基点とする都市環状道路」という表現は、車が上田駅を中心に流入するというイメージになるので、道路だけではなく、鉄道もあるので、「都市交通網」、「都市交通対応」という表現でどうか。

項目 について

- ・「旧町名の研究と認識を深め、～」を「旧町名、字名の研究と認識を深め、～」とする。

項目 について

- ・ 安全意識の高揚については、まず自分達の地域や自分の身は自分で守るという意識の高揚が先ではないか。
- ・ 警察官のパトロールを強化し、緊急時には交番が留守ということのないような対応が必要である。

項目 について

- ・ 「農地と宅地が調和したまちづくり」については、イメージとしてわきづらいので削除する。「近郊農業の生産意欲の向上と促進」という文言を項目 に追加してはどうか。

項目 について

- ・ 少子高齢化について一つのフレーズで表現しているが、少子化対策と高齢化対策は、違った次元であるので、分けて考えられないか。
- ・ 「住民が主体となった福祉活動」については、「住民と協働による福祉活動」とすべきではないか。

項目 について

- ・ 「近郊農業の生産意欲の高揚と促進」を追加する。
- ・ 市内の学生が卒業後も上田市に就労し、住んでもらえるような対策を講じていく。

#### 【4班】

(委員)

項目 について

- ・ 「～市街地の活性化と商業の振興を一体的に推進します。」を「～市街地の活性化と商業の振興を総合的に推進します。」とする。
- ・ 「街なか居住」の解釈についてお聞きしたい。

項目 について

- ・ 「歴史的無形文化財ともいうべき、旧町名の研究と認識を深め、～」を「歴史的有形無形文化財の保全や、又旧町名の研究と認識を深め、」とし、有形文化財についても認識を深めていくことでどうか。

項目 について

- ・ もてなしの心、歓迎する気持ちについては、上田駅前が上田市の玄関口となるので、どのような印象づけを進めていくか。交通機関の関係者のマナー向上を図り、関係者も上田市の案内ができるような体制がとれればいい。

項目 について

- ・ 斜面樹林は、神川、染屋台河岸段丘以外にもあるので、「神川や染屋台河岸段丘

の斜面樹林などを保全し、～」とする。

項目 について

- ・「保健福祉総合センターの整備」については、整備の内容を具体的に記載していく。

項目 について

- ・「共助によるまちづくり」を「協働、共助によるまちづくり」とする。
- ・地域住民が気楽に活用できる地域づくりの拠点、また地域協議会の拠点として例えば福社会館の一部を利用できないか。

項目 について

- ・「産学官連携」を他の表現ができないか。
- ・「大学などの研究機関との協力体制を強化し、～」を「大学などの研究機関と市民との協力体制を強化し」とする。
- ・大学等の研究機関の研究の成果を広く紹介する機関誌を発行したらどうか。
- ・「農民美術や上田紬など地域に伝わる伝統工芸の振興を図り、後継者の育成と技術伝承を図ります。」を「農民美術や上田紬など地域に伝わる伝統工芸の振興を図り、歴史的文化に触れながら、後継者の育成と技術伝承を図ります。」とする。

(林会長)

それぞれ発表いただきましたが、今後どのように進めるか。

(原沢自治振興課長)

全体の中で意見があればお出しいただきたい。また、項目については、本日決定いただきたいので、確認をお願いします。

各班の発表の中でありました「街なか居住」については、総合計画の本体と調整させていただいたところであるが、人が集えるような都市機能の集積を図るといった施策の中で使っている文言である。

(委員)

項目 の「自治会を始め各種団体や個人が地域課題への対応や生涯学習などへ積極的に参加するよう支援すると共に、各種課題解決に向けた人材発掘にも取り組み、～」を「自治会を始め各種団体や個人が地域課題への対応や生涯学習などへ積極的に参加できるよう支援すると共に、各種課題解決に向けた人材発掘、人材育成に取り組み、～」としたらどうか。

(林会長)

だだいまの意見につきましては、班の意見としてお出しいただくことで、シートに記載願います。その他ございますか。

(委員)

項目 の「農地と宅地が調和したまちづくりにも配慮します。」については、自然の中で農村風景と街の風景をマッチさせたということであれば、うまく収まる気が

する。方針の中で農業問題についてあまり触れられていないので、先程発表の中で近郊農業の生産意欲の高揚と促進について提案させていただいたところであるが、自然環境の中でなじむかどうか多少疑問は残る。

(委員)

先程の班別発表の中で、項目 について、「自治会を始め～」を「自治会を中心として～」に修正したらどうかという意見があったが、市全体で見れば、自治会は私達が生きている営みの中の他の団体と同じように、生活の中の一部であるので、それが突出して中心ということよりは、事務局案のとおり「自治会を始め」の方がまとまりもいいし、他の活動も一生懸命やっているという部分も強調されていいのではないかと思うので、検討いただきたい。

(委員)

自治会は、入会を拒むことなく何方にも加入いただける。その他の団体については、そういうことではなくてまとまっている団体ということで、明らかに違う目的を持った組織であるという認識のもとに、班の意見として出させていただいたところである。

(林会長)

各種団体は、自分の趣味とか嗜好とかあるいは賛同するから入るということであるが、自治会はそこに居住している人がお互いに助け合って安心安全なまちづくりをはじめ様々な面で地域住民のために努力していくという団体ですから、他の団体と区別するのが正しいと思う。

(委員)

意見として「自治会を中心とした」という表現があって、事務局で「自治会を始め」ということであるが、地方分権の路線に沿って住民主導の新市づくりということになれば、自治会中心という表現でもいいのではないかと思う。

(委員)

旧上田市は、自治会が定着しているので理解できるが、全市の中で自治会という言い方をした場合、旧町村の住民はどのような捉えるのかということもある。

(林会長)

旧町村 3 地域の区は行政依存型の組織であり、旧上田市の自治会は任意参加の共同体であることから、かなり性格も内容も違う。これまで 2 年間かけて議論を重ねてきた結果、本年 1 月 1 日に全市で自治会の名称に統一したところであり、3 月には設立総会が予定されている。区においても行政依存型の組織から脱皮していくことで意思統一がなされているところである。

(委員)

自治会の組織は行政の一翼を担いながら、苦情を聞いたりする中で地域の様子がわかるが、全市民が参加して地域づくりを広く進めようとする時に、自治会中心と

という言い方で言い切った時、各種団体からみれば、自治会中心という言い方は少し突出する気がするので、「自治会を始め」という表現でもいいのではないかと思う。

多くの市民や市民団体を集めて地域づくりを進めるには、思いと実態がずれた時に困る気がするので、そういった意味で、事務局案どおり「自治会を始め」と表現しておいた方がいいと思う。

(委員)

実際町単位では、何をやるにも自治会を中心として動かないと事が運ばないこともあり、責任を持たせてさらに一段と自治会の存在を区民、市民に徹底していきたいという思いで、班としての意見をまとめたところである。内容をご存じない方には、突出した異論のように感じられるかもしれないが、上田市全域が自治会組織として横並びとなったことも全面に出していきたいということもあり、「自治会を中心として」という表現を提案させていただいたところである。

(林会長)

他の 8 協議会の状況等も確認する中で、事務局で検討いただき、次回の協議会へ方針案を出していただくことでお願いしたい。

(委員)

項目 について、伝統工芸だけではなく、山口大根や地産地消の問題もあり、東山農地の開発なども長野大学の学生に協力してもらっているので、包括的に方針に加えられれば検討いただきたい。

(林会長)

本日討論した内容につきましては、事務局でまとめたものを次回再度検討しながら、答申に向けたまとめをしていきたい。

## (2) その他

- ・ 新市建設計画の「女男（ひとひと）いきいき」の表現について

(原沢自治振興課長)

第 2 回の協議会で質問のありました新市建設計画の中の「女男（ひとひと）いきいき」の表現について回答いたします。

新市建設計画は、新市将来構想を基に策定したところであるが、将来構想の策定段階で、女性が働きやすく安心して出産育児ができる環境整備、あるいは社会で活躍する女性を支援する必要がある、また男性が中心になってしまう傾向がある、女性があらゆる面で差別されないまちづくりが必要だといった意見が策定委員から出る中で、インパクトの表現にした方がいいということから、「女男（ひとひと）」という表現にしたようである。

具体的な事業については、「男女」と表現しているが、項目については、建設

計画の 31 ページにある「支え合い健やかに女男（ひとひと）いきいき」したところでもありますので、ご理解をお願いします。

・次回の開催について

1月30日（月）午前10時から〔中央公民館 3階大会議室〕